

平成30年6月1日(金)



つつじが丘小学校
学校だより

つつじ

昭島市立つつじが丘小学校長 上田 祥市

上手なかかわりを ～今月はふれあい月間～

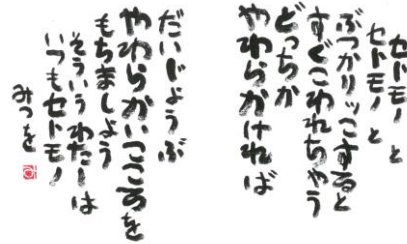
副校長 森本 弘子

東京都教育委員会では、6月、11月、2月を『ふれあい月間』として、いじめや不登校、暴力などの問題行動を未然に防止し、子供たちの健全育成を目指して取組を行っています。

本校でも、児童へ学校生活についてのアンケートを実施し、必要な児童へは、面談や組織的な指導を行うことで、いじめの早期発見、早期解決に努めます。また、人とのかかわりを大切に、より良い関係が築けるよう学校全体で指導をしています。

人は人の中で生きていきます。「人」という字も互いに支え合って成り立っています。人と人が支え合い、より良くかかわり合いながら生活することは重要です。子供たちが集まって生活する学校は、人と人とのかかわりを学ぶ大切な場です。それぞれ育った環境や経験が違います。また、一人一人個性も違えば発達の違いもあります。

ですから、大勢の子供たちが集まっての学校生活の中では、ちょっとしたもめごとは、どこのクラスでもよくあることです。そのような時、教師は双方の話をしっかりと受け止めながら聞いて、事実を整理しながら解決へと導きます。大抵は、それぞれの認識の違いだったり、お互いに自分の思いを通そうとしていたためだったりします。子供たちはどこでどうすれば良かったのか、自分の行動を振り返りながら、望ましい行動に気付きます。



心のノート5・6

年生用より

私が担任時代、子供たちによく紹介した相田みつをさんの詩です。

セトモノとセトモノがぶつかったらすぐに壊れてしまいます。どちらかが柔らかければ壊れることはありません。心も同じです。どちらかが柔らかい心で相手を受けとめることができれば、トラブルで傷つくことも減るのではないのでしょうか。

本校の特別支援教室「そよかぜ学級」では、友達との上手なかかわり方について教えています。その一つに「折り合いのものさし」というものがあります。子供たちの間では、自分の思いを押し通そうとしてぶつかり合うことがしばしばあります。そんな時、お互いに譲歩して折り合うことで、双方が納得し、気持ちよく過ごせるようになることを学ぶ方法です。通常学級の担任も子供たちの指導でよく使っています。最近では子供たちからも「折り合う」という言葉が出てきて、上手に解決できるようになってきました。

ご家庭での会話の中でも、人とのかかわり方について話題にしていただけたらと思います。

スクール・サポート・スタッフ 瀬川 ゆうさん(週3日) が勤務します。

教員の働き方改革推進取組の一環として、教員の業務負担軽減を図り、児童の指導や教材研究に力を注げる体制を整備するためのサポートを行います。主な業務は、授業準備(理科・家庭科等)、学習プリントの印刷配付準備、テストの採点、提出物確認、欠席連絡の有無の確認等です。児童への指導は行いません。

なお、朝の欠席・遅刻連絡が無く児童が登校していない場合に、上記のスクール・サポート・スタッフが保護者の方へ連絡させていただくことがあります。ご承知おきください。スタッフが増えた場合、名前をお知らせします。